属人区長の書簡 (2013年6月)

2013/06/11

愛する皆さん、イエスが私の娘たち と息子たちをお守りくださいますよ うに!

6月になるといつも、聖ホセマリアの思い出が脳裏にいきいきとよみがえります。属人区では26日に典礼上の記念を盛大に祝います。生活のの記念を盛大に祝います。生活み返すを黙想し、その著作を読み返すさとに、神のみ旨にどこま晴らします。聖書の本がは聖所にいまし、恐るのはいまし、恐るがは聖所にいまし、恐るがます。

キリストとの全面的な一致、これこそが聖性の目的ですが、それは聖霊の特別なはたらきによって成就されます。絶えず霊魂を聖化してくださる聖霊のみ業に感謝しましょう。ここ数週間に聖霊降臨と至聖三位一体の祭日を祝い、度々、この神に、心

を挙げました。聖パウロが述べているように、神は「すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます。」「ii

年間節に戻った今、典礼は私たち に、私たちがペンテコステの日の慰 め主の到来と世の終わりのイエス・ キリストの栄光に輝く来臨との中間 にいることを、思い起こさせてくれ ます。これはクレドに含まれている 直理の一つで、それによって主に関 する神秘的な時期が閉じられるので す。私たちは日曜日ごとにミサ聖祭 で、主は今、御父の右に座っておら れ、「生者と死者を裁くために栄光 のうちに再び来られ、その国は終わ ることがない」[iii] と宣言します。

カトリック教会のカテキズムは説明します。「昇天以来、キリストの栄光の来臨は差し迫っています。」 [iv] つまりそれはいつでも起こりうることなのです。歴史が幕を下ろ

し、世が決定的に新たにされるこの 出来事がいつ起こるのかは、神のみ がご存じです。ですから、不安に 陥ったり、恐れを抱いたりすること なく、しかし、責任をもってイエス との最終的な出会いに向けての準備 を怠らずに歩みを続けなければなり ません。他方、この主との出会いは 一人ひとりの死の瞬間に実現されま す。私たちは神から出てきて、神に 帰ってゆくのです。これこそが、キ リスト教の知恵の根底にある現実な のです。しかしながら、最近教皇様 が憂慮されたように、「歴史のこの 両端はしばしば忘れられています。 とくにキリストの再臨と最後の審判 についての信仰は、時としてキリス ト信者の心の中であいまいで不確か なことがあります。| [v]

一人ひとりが最終的に主と出会うのは、日常生活の各瞬間の一貫した振る舞いによって先取りされていくことを考えましょう。聖ホセマリアが

日々の生活のため、主にmane nobíscum![vi] 一緒にお泊りくださ い、と願っておられたことを未だに 鮮明に覚えています。主が働かれる ように私たちの全てを主に委ねるべ きことを自覚して、私たちもこのよ うに言えるでしょうか。また、生活 のあらゆる場面で神にすぐさま気づ くようにと励ましておられました。 『道』にこうあります。「生ける人 と死せる人とを裁かんために来たり 給う主を信じたてまつる」と信仰官 言(クレド)で唱える。願わくは、主 の審判と、その正義と、裁き主から 目を離さないように。| [vii] 日々、 この予期せぬ出来事を個人的に考察 し、喜びに満ちておられたことも、 私は知っています。私たちも神の子 であることを知っているのですか ら、同じように喜ぶはずです。です から、こう加えられたのです。「あ なたを裁くときに父なる神がお喜び になるように、このような望みが心 のうちに燃え上がらないだろう か。」[viii]

一人ひとりが現代史を築き上げる責 任を担っている今は、「目覚めて待 望すべき時なのです。| [ix] 私たち は神のよい子どもとして、恩恵の助 けのもと、キリストが最終的に完成 してくださる神の国を、この世に根 付かせていくために、夢を持って元 気よく働かなければなりません。創 立者は度々、タレントのたとえを説 明してこう話しておられました[x]。 教皇様が、信仰年に関するカテケシ スでこう思い起こさせてくださいま した。「主の再臨を待つ時間は、行 動する時間です。(…)この時間の中 で、わたしたちは、自分自身のため ではなく、神のため、教会のため、 他の人々のために、神のたまものか ら実りを生み出さなければなりませ ん。つねに世の善をふやすように努 めなければなりません。とくに現代 のような危機の時代にあって、大切

なのは、自分の中に閉じこもり、自分のタレント、すなわち自分の精神的・知的・物質的な財産を、主が与えてくださったすべてのものを隠すのでなく、心を開き、連帯し、他の人に心を向けることです。」[xi]

子どもたちよ、この勧告を忘れては なりません。他の多くの人々が、た だ聞くだけではなく、実行するよう に、私たち自身、努力することで す。最終的にそれは、神への愛ゆえ に、いつも他の人たちの必要として いることに注意していることだと言 えます。「カテキズム」に引用され ている十字架の聖ヨハネの言葉、 「わたしたちは牛涯の夕べに愛につ いて裁かれる」「xii」ことを意識しつ つ、まず近しい人たち、家族や同 僚、隣近所の人たちへの奉什から始 めることです。このようにキリスト ご自身が聖マテオの福音書の最後の 審判の場面で述べておられます [xiii]。仕えることをどのように理解 しているでしょうか。日々の生活になくてはならない細やかな心配りに、超自然的で人間的な喜びを見出しているでしょうか。

日神かめわれみと忍耐をもってこの時を与えてくださったのは、わたしたたちが日々、貧しい人、小さな人の中に神を見出すことを学ぶためです。善のために努力し、祈りと愛のうちに目覚めているためです。」
[xiv]

イエスが栄光のご昇天後に送られた 聖霊は、私たちを支え、促しておら れます。そのことを私たちは、先日 の聖霊降臨の祭日に喜びのうちに考 察し、クレドを唱える度に教会における聖霊の存在と働きを宣言します。「わたしは信じます。主であり、いのちの与え主である聖霊を。聖霊は、父と子から出て、父と子とともに礼拝され、栄光を受け、また預言者をとおして語られました。」
[xv]

これは、人間理性には及びもつかない真理で、キリストが十二使徒に完全に神の偉大さと完全性を教えます。「父は何者にももられず、生まれず、子は造られたもられない。」「xvi」カトリック教会のカテマであり、と子から発出したものである。」「xvi」カトリック教会のカテマであり、「xvii」

聖霊は父と子の二位のペルソナから 発出する愛です。造られたものでな

神に象って神の似姿として造られた人間固有の理解の仕方や愛したいるといて、聖書が聖霊に与えている発力にも、御父と御子から、御父と御子から発生して聖霊は説明された永遠不変の愛として聖霊は説明されました。父なる神は、ご言の本性を知りつの御子を生み、遠、の本性を知り合っておられます。それが聖霊なのです。

信仰のお陰で、神なる慰め主がいつ も共に居てくださることを認める私 たちは、何と言う喜びと平和を与え られていることでしょう。愛情深い 友達のようにただ外部から付き添う のではなく、私たちの心の奥深くに 客人として、恩恵によって御父と御 子と共にお住みなのです。教会が聖 霊降臨の続唱で唱えるように聖霊 は、「苦しむときの励まし、あつさ のやすらい、憂いのときの慰めし [xviii]です。それは恵みあふれる光 で、心の深みに入り込み、キリスト をよりよく知ることができるように 心を清めてくれます。また困難や反 対にとり囲まれているようなとき主 におそば近くから従うことができる よう私たちを強めてくれます。さら に、自分自身の殼から抜け出して、 他の人々のことを思いやり、彼らを 神に近づかせるようにと私たちを促 します。

「神の御力は地の面を照らし出しま す。キリストの教会は、聖霊の力を 得て、常に、全てにおいて、諸国に 対して掲げられたしるしとなり、神 の愛と恩恵を人類に伝えるのです(イ ザヤ11.12参照)。私たちがどんなに 限界だらけの存在であっても、信頼 をもって天をながめれば喜びに満た されます。神は私たちを愛し、罪か ら解放してくださるからです。教会 における聖霊の存在と働きかによっ て神のお与えになる平和と喜び、そ して永遠の至福を垣間見ることがで きるのです。| [xix]

聖書が慰め主について語るために 使っているたとえの中で、度々出て くるのが水です。水は、この世の生 活になくてはならないものです。そ れがなかったり少なかったりする と、地は砂漠と化し、生き物は病気 になったり死んだりしてしまいま す。水は、創造主が全ての人間に託さ れた偉大な善なのです。超自然界に おけるいのちの泉は慰め主です。イ エス・キリストは、サマリアの女性 との対話で、また仮庵祭(かりいおさ い)で、信仰をもってみことばを受け 入れる人には「生きた水」を与える と約束なさいました。そして、それ を捜し求める人は皆、心の中に絶え ず湧き出る「生きた水の泉」をもつ 事になると仰せになったのです。聖 ヨハネが「イエスは、ご自分を信じ る人が受けようとしている"霊"につ いて言われたのである | と記してい ます[xx]。

です。」[xxii] よい父親や母親のように、私たち一人ひとりにとってはそれ以上に細やかに見守ってく、その助けをお願いしているでしょうか。日ごと、聖霊の働きかけに注意深くする決意を新たにしているでしょうか。逆らうことなくその勧めに従うよう努めているでしょうか。

この望みを実行していくため、聖ホ セマリアがオプス・デイ草創期に記 した数節を自分のものにするようお 勧めします。「聖霊よ、お出でくだ さい。あなたのご命令を把握するた め、私の知性を照らしてください。 敵の悪だくみに対する心を強めてく ださい。私の意志を燃え立たせてく ださい…。あなたのみ声を聞いた ら、心を頑なにして、後でとか明日 とか言って、先延ばしすることはし たくありません。Nunc cœpi! 今す ぐに! 私に明日はないかもしれませ んから。

ああ、真理と知恵の霊、知識と教導の霊、喜びと平和の霊よ、あなたがお望みのことを私は望みます。あなたがお望みだから、あなたがお望みのように、あなたがお望みのときに望みます…。」[xxiii]

全幅の信頼をもって教会と教皇のた め、司教と司祭のため、全キリスト 信者のため、聖霊にお願いしましょ う。特に、教会の小さな部分である オプス・デイとその信者や協力者の ため、また神と人々によりよく仕え ようと高貴な望みを持って、わたし たちの使徒職に近づく全ての人たち のためにお願いしましょう。今月祝 うイエスの聖心の祭日とマリアの汚 れなき御心の祝日は、何と大きな慰 めを与えてくれることでしょう。平 和と愛、喜びと確信をもたらしてく れるこの隠れ家に生きましょう。

二日前に、オプス・デイの使徒職が 形を整えつつある南アフリカの旅か

ら帰ってきました。ご存知のよう に、私は、できることなら娘や息子 たちが定住し働いているあらゆる所 に居たいと思っています。私は、祈 りと喜んで捧げる犠牲、そして仕事 を奉献することによって、そのよう なところに出かけます。私の意向に 一致し、私のために祈ってくださ い。特に今月14日の誕生日には熱心 に祈ってください。それは、私が、 いつも創立者のように喜んで全てを 与えつくし、愛するドン・アルバロ やもう天の住処にたどり着いた多く の兄弟たちと同じ忠実さを持って、 ただただ、神と教会、全ての人々と あなたがた皆に仕える熱意だけを もって振舞えるようになるためで す。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

†ハビエル

ローマ、2013年6月1日

[i] 詩編67/68, 36(Vg)。

[ii] 1 テモテ2,4。

<u>[iii]</u>ローマ・ミサ典文、「ニケア・ コンスタンチノープル信条」。

<u>[iv]</u> 『カトリック教会のカテキズム』673番。

[v] フランシスコ教皇、2013年4月24日一般謁見講話。

[vi] ルカ24,29。

[vii] 聖ホセマリア、『道』745番。

[viii] 同上 746番。

<u>[ix]</u> 『カトリック教会のカテキズム』672番。

[x] マタイ25,14-30参照。

[xi] フランシスコ教皇、2013年4月 24日一般謁見の講話。

[xii] 十字架の聖ヨハネ、『勧告と訓戒』57。 『カトリック教会のカテキズム』1022番参照。

[xiii] マタイ25,31-46参照。

[xiv] フランシスコ教皇、2013年4月 24日一般謁見の講話

[xv] ローマ・ミサ典文、「ニケア・ コンスタンチノープル信条」。

[xvi] アタナシオス信条。

[xvii] 『カトリック教会のカテキズム』254番。

[xviii] ローマ・ミサ典文、聖霊降臨の祭日の続唱。

[xix] 聖ホセマリア、『知識の香』128番。

[xx] ヨハネ4,10-13;7,37-39参照。

[xxi] フランシスコ教皇、2013年5月 8日一般謁見の講話。

<u>[xxii]</u> 聖ホセマリア、『知識の香』 134番。

[xxiii] 聖ホセマリア、1934年4月手 書きのメモ。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント https://opusdei.org/ja-jp/article/shuren-qu-chang-noshujian-2013nian-6yue/ (2025/12/13)